

今日のキーワード「大学生の就職率」は過去最高に接近(日本)

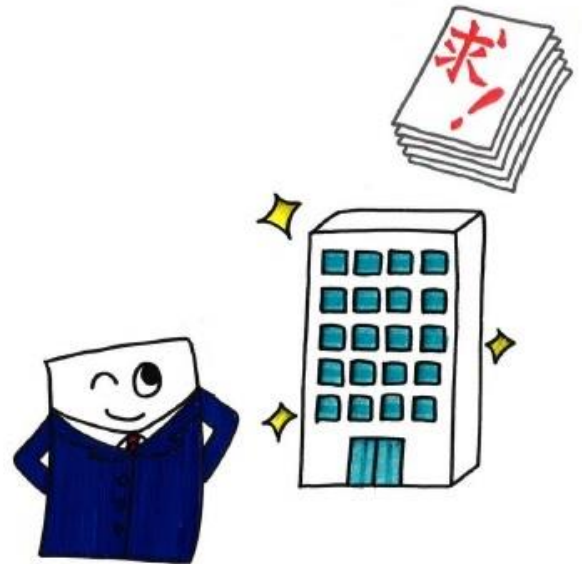
大学生の就職状況は、文部科学省と厚生労働省が共同で調査する「大学等卒業者の就職状況調査」で知ることができます。両省は、共同で大学などの卒業(予定)者の就職(内定)状況について年4回(10月、12月、2月、4月の各1日時点)の調査を行い、各翌月中旬頃に結果を発表しています。地域別、文系理系別、男女別などの状況も把握できます。

ポイント1 就職率は4年連続で上昇 企業収益の拡大を反映

■19日に発表された「平成26年度大学等卒業者の就職状況調査」によると、今春卒業の大学生(就職希望者)の就職率は、前年比2.3ポイント改善し96.7%となりました。これは、4年連続の上昇で、過去最高だったリーマン・ショック前の2008年春(96.9%)に次ぐ水準です。企業収益が2014年度(平成26年度)に過去最高を更新するなど順調な拡大を示しており、企業の採用意欲の高まりが反映された形です。

ポイント2 文系、女子の就職率が良好 新入社員の仕事に対する熱意は低下傾向

- 就職率を各項目別で見ると、地域別では、近畿(97.1%)、九州(94.7%)が過去最高を更新し、全6地域ともに上昇しました。男女別では、女子が96.9%と3年連続で男子(96.5%)を上回りました。また文系理系別では、文系が前年比2.5ポイント改善の96.5%、理系が同0.8ポイント改善の97.2%と文系の改善が顕著です。
- 就職環境が好転した反面、仕事に対する熱意は低下傾向と見られます。日本生産性本部が発表した「2015年度新入社員春の意識調査」によると、「年功重視の給与」を希望する回答が過去最高となり、「海外勤務の希望」が初めて過半数を下回りました。また、「仕事を通じてかなえたい夢がある」という質問に対し、「そう思う」と回答した割合が前年比7.1ポイント低下の58.9%となりました。



今後の展開 企業収益の拡大で雇用も増加へ

■就職は、「買い手市場」から「売り手市場」へ

有効求人倍率は、2013年11月に約6年ぶりに1倍台を回復し、今年の3月は1.15倍と前回のピーク(2006年7月の1.08倍)を超える水準です。就職は、企業優位の「買い手市場」から求職者優位の「売り手市場」の性格が強まっており、企業の人材確保が重要な課題となっています。

■2016年卒業予定者の就職も順調に

2015年度の企業収益は過去最高が続くと見込まれ、2016年大学卒業予定者の就職も好環境が続くと見られます。日本経済の新たな担い手としての活躍が期待されます。

ここも チェック!

2015年05月22日 日銀政策と株式市場の動向
2015年05月21日 「全国百貨店売上高」、回復基調強まる(日本)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。